令和6年9月4日

令和６年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和６年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和6年4月18日（木）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問調査）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問調査）

4　本校の実施状況

第４学年	国語	３８人	算数	３８人	理科	３８人
第５学年	国語	４４人	算数	４４人	理科	４４人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

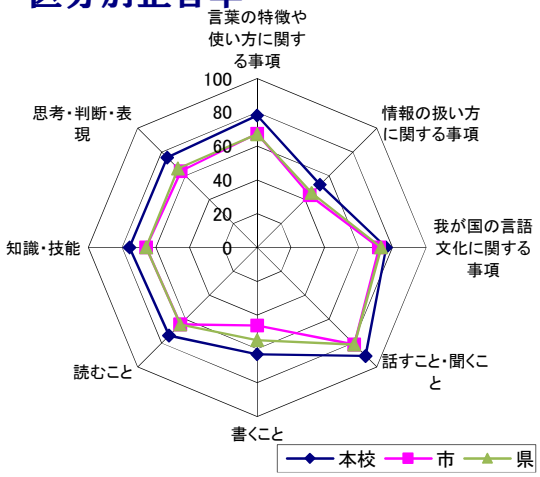
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.1	67.4	67.1
	情報の扱い方に関する事項	52.6	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	76.3	72.1	73.4
	話すこと･聞くこと	90.8	81.2	81.2
	書くこと	63.2	46.2	54.9
	読むこと	73.7	64.3	64.5
観点	知識･技能	75.6	65.7	65.7
	思考･判断･表現	75.3	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

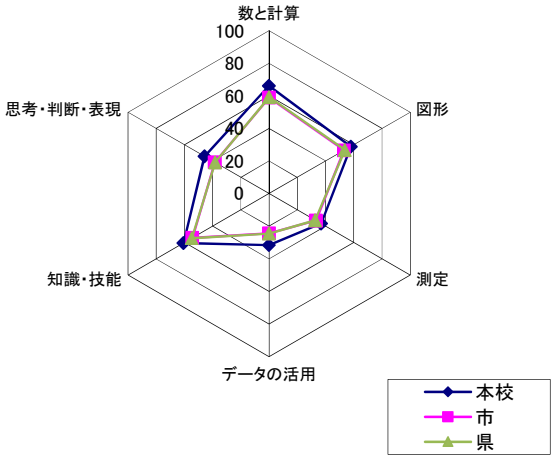
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，県や市の平均より高い。 ○漢字を読む，書く問題では，正答率が県や市の平均を上回っている。既習の漢字がおおよそ身に付いていると考えられる。 ●ローマ字で表記されたものを読む問題では，県の平均より上回ってはいるが，ローマ字の読み方の理解がまだ十分ではないと考えられる。	･情報教育と関連付けて，ローマ字入力によるパソコンの活用をするなど，日常的にローマ字に触れる機会を増やす。 ･朝の学習や家庭学習などを通して，ローマ字の学習を継続していく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，県や市の平均より高い。 ○国語辞典の使い方の問題では，県や市の平均より上回っており，国語辞典の使い方をほぼ理解していると考えられる。	･語句調べなどを通して，国語辞典を活用する機会を増やして語彙力を高めていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，県や市の平均より高い。 ○漢字のへんやつくりを選ぶ問題では，県や市の平均をやや上回り，漢字の部首についてはおおむね理解しているといえる。	･引き続き漢字スキルやAIドリルの活用，朝の学習，家庭学習などを通して，漢字の学習を継続していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，県や市の平均より高い。 ○理由付けて自分の考えを，相手に伝える問題では，県や市の平均よりも10ポイント以上高く，考えをまとめる力は身に付いてきているといえる。	･対話的な活動を授業の中で積極的に取り入れる。 ･国語の時間を中心に，話合いの内容を正確に聞き取る経験を多く積ませるようにする。
書くこと	平均正答率は，県や市の平均よりも高い。 ○自分の考えをもち，理由を明確にして文章を書く問題では，正答率が，県や市の平均より約10.ポイント上回り，自分の考えを理由付けて書く力が身に付いているといえる。 ●段落を分けて文章を書く問題では，県と市の平均より上回っているが，文章構成の力が十分ではないと考えられる。	･国語の文章を書く活動や日常的な日記や作文等の指導において，段落構成を意識して文章を書く経験を積ませる。 ･新聞やリーフレットを作る活動などを通して，調べたことを分かりやすく伝える力を身に付けさせる。 ･自ら書きたいと思うようなう学習活動を各教科の中で取り入れる。 ･2段落構成の作文を書く機会を設け，書くことに関する抵抗感が少なくなるような取組を行う。
読むこと	平均正答率は，県や市の平均より高い。 ○登場人物の気持ちについて叙述を基に捉えることができるかどうかをみる問題では，県や市の平均を大きく上回っている。 ●物語文の場面の様子について叙述を基に捉える問題の正答率は低い。	･教材文の場面分けの指導を丁寧に行い，場面の様子や登場人物の心情の移り変わりを叙述をもとに捉えるようにしていく。 ･文章を読むときに，段落や構成を意識しながら読む活動を取り入れていく。 ･物語文や説明文などの本に触れる機会を意図的に多く設定していく。

宇都宮市立宮の原小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.2	58.9	59.2
	図形	57.9	53.0	53.7
	測定	36.8	33.1	32.6
	データの活用	31.6	24.4	24.6
観点	知識・技能	60.7	54.3	54.7
	思考・判断・表現	45.7	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

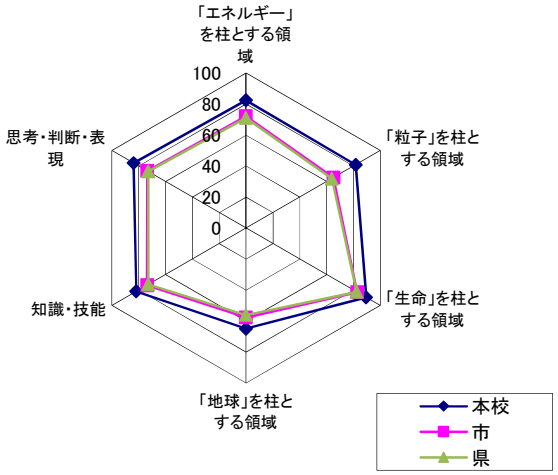
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	校内平均正答率は，県や市の平均より高い。 ○分数の大きさ，小数の仕組みや表し方，基本的な四則計算の問題では，正答率が高くほぼ理解しているといえる。コース別学習や少人数指導を充実させた成果だと思われる。 ●大きな数の表し方や，計算の仕方について説明することに課題が見られる。	・数のまとまりを捉えられるように，学習の中にICTを活用し，視覚的に理解できるような手立てを取り入れる。 ・計算の仕方については，計算の過程を説明し合う機会を増やしていく。
図形	校内平均正答率は，県や市の平均より高い。 ○二等辺三角形の性質を理解し折り紙で作製する問題では，校内正答率が県や市を上回っている。具体物を使って理解を深めた成果だと思われる。 ●円の性質を利用して，正三角形を作図する問題の理解に課題が見られる。	・朝のステップアップやコース別学習で，個別の支援を行い，作図の仕方の定着を図る。 ・既習事項と結び付けて考えさせるような場を設けたり，それを応用した問題に取り組む機会を増やしたりし，理解が深まるようにする。
測定	校内平均正答率は，県や市の平均より高い。 ○地図から道のりを読み取り，2つの道のりの差を求める問題では，校内正答率が県や市を上回っている。長さについての基礎基本が定着している成果だと思われる。 ●重さについての基礎基本の定着が，不十分である。	・操作活動を通して，様々な目盛りの読み方の定着を図る。 ・他教科とも関連付けながら，折に触れて，目盛りを読む機会を増やす。 ・単位の概念については，日常生活や他教科と関連させ，繰り返し取り上げることにより，身に付けさせていく。
データの活用	校内平均正答率は，県や市の平均より高い。 ○目盛りの付け方が異なるグラフの比較については，正答率は県や市より高いが，全体の理解は十分であるとはいえない。 ●適切な棒グラフから，示された値を読み取る問題では，課題の理解が不十分なところが見られる。	・学習や生活と結び付けて，データを活用したり分類・整理したりする活動を，積極的に取り入れる。

宇都宮市立宮の原小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	82.4	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	81.6	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	89.5	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	64.9	57.7	56.2
観点	知識・技能	81.8	73.8	72.8
	思考・判断・表現	83.8	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	校内平均正答率は，県や市の平均正答率を上回っている。 ○磁石に引きつけられるものを選ぶ問題では，磁石につくものとつかないものを正しく見分けることができている。 ●集めた日光の光の大きさと，明るさとあたたかさとの関係についての理解が十分でないところがある。	・実験や体験的な活動をさらに充実させ，学習内容の定着を図る。 ・日光を集める実験において，明るさやあたたかさの変化に意識が向くように，明るさやあたたかさと煙の発生との因果関係を丁寧に整理して説明する。
「粒子」を柱とする領域	校内平均正答率は，県や市の平均正答率を上回っている。 ○形を変えても重さは変わらないことについて十分に理解している。 ●同じ体積でも，ものの種類によって重さが違うことについて，表と関連付けて考えることに課題が見られる。	・実験の機会を十分に確保し、実験結果からわかることを子どもたちに分析させたり，まとめたものを説明させたりする。 ・実際に手で持ったときの感覚から重さを比べるなど，体験的な活動を取り入れる。
「生命」を柱とする領域	校内平均正答率は，県や市の平均正答率を上回っている。 ○植物の体のつくりについて十分に理解している。 ●虫眼鏡などの実験用具の正しい使い方に課題が見られる。	・実験用具の使い方を丁寧に指導し，実際に正しく操作できているか確かめるようにする。 ・観察の時間を確保したり，デジタル教材を上手に活用したりする。
「地球」を柱とする領域	校内平均正答率は，県や市の平均正答率を上回っている。 ○かげが太陽の反対側にできることを理解し，かげふみの動きと結び付けて考えることができている。 ●方位磁針の正しい使い方が十分に身に付いていない。	・理科の授業だけでなく，社会科の学習においても方位磁針を活用し，身に付けられるようにする。 ・方位磁針の使い方について，共通のものを目標物にして全員で確認していく。

宇都宮市立宮の原小学校 第４学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○家庭学習に関する質問の肯定的回答率は，「家で，自分で計画を立てて勉強をしている」が95%，「家で，学校の授業の予習をしている」が85%，「家で，学校の授業の復習をしている」が85%，「家で勉強するときに，だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」が75%で，それぞれの回答で市の平均を10ポイント以上大きく上回っている。家庭学習の指導を重点的に行う期間を設けたり，カレンダーや振り返りカードの活用を図ったりしてきた成果の表れであると考えられる。
　今後も家庭との連携を図りながら，内容の工夫にも目を向けられるようなアドバイスをして，更なる充実を目指していきたい。

○「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている」と肯定的に回答した児童の割合は，それぞれ8割を超えており，市の平均と比べて5ポイント以上高い。対話的な活動を授業に積極的に取り入れてきた成果の表れであると考えられる。
　今後も引き続き，対話的な活動の機会を設け，友達の意見と比較しながら相手意識や目的意識をもって意見を述べ合い，一人一人が話をつなぐことができる話合いの充実に努めていく。

○「疑問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい」「本やインターネットなどを利用して，勉強に関する情報を得ている」と肯定的に回答した児童の割合がどちらも市の平均を10%以上大きく上回った。総合的な学習の時間や国語など自分の調べたいテーマを決めて取り組む活動や家庭学習で調べ学習を推進してきた成果の表れであると考られる。
　引き続き，調べ学習の機会を設け，児童の興味関心から主体的に学ぼうとする態度の育成に努めていく。

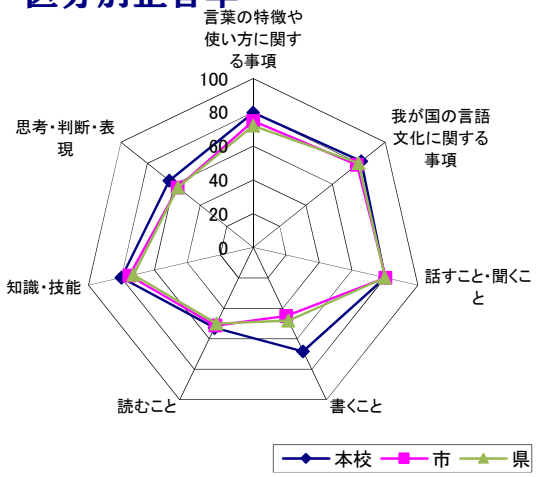
●「学校の授業時間以外に，ふだん（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，読書をしますか」の質問について、「全くしない」と回答した児童の割合が12.5%であった。また，「新聞を読んでいる」の質問について，「ほとんど，またはまったく読まない」と回答している児童の割合が8割を超えていた。文章に触れる機会が増えると，語彙力も増え学びの質も高まると考えられる。
　引き続き，図書館司書とも連携して本の活用の推進を図ったり，新聞を活用した授業などに取り組んだりして，児童が進んで本や新聞を読む機会を増やしていきたい。

●「ふだん（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームをふくむ）をしますか」「ふだん（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，テレビやDVD，動画などを見たり，聞いたりしますか（テレビゲームはのぞく）」の質問には，「4時間以上する」と回答した児童がそれぞれ7.5%いる。長時間使用し，放課後の時間が乱れている児童がいることが分かる。
　今後も保護者との連携を図りながら，規則正しい生活習慣の改善に努めるとともに，長時間のテレビ・動画視聴やゲームの影響について改めて児童が考える機会を設けていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.8	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	81.8	78.6	79.9
	話すこと･聞くこと	80.1	80.4	80.0
	書くこと	68.2	45.1	48.0
	読むこと	52.8	51.3	50.0
観点	知識･技能	80.0	75.2	72.8
	思考･判断･表現	63.5	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

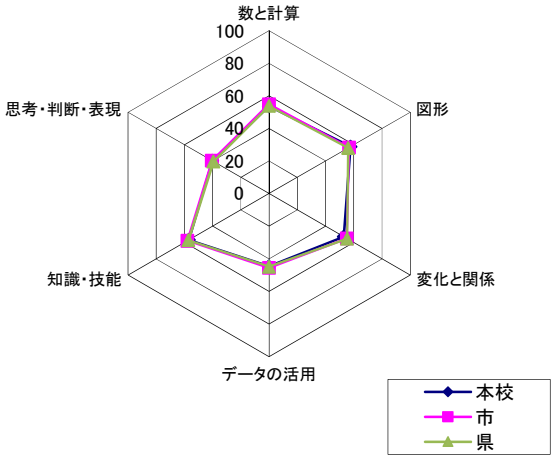
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，県や市の平均より高い。 ○漢字を読む問題では，全ての問題で正答率が高く，基礎基本の定着がおおむね図られていると考えられる。 ●連体修飾語の問題では，修飾語の意味や使い方の理解が不十分である。	･修飾語や熟語，漢字などの言語に関する内容をスキルやプリントを活用して定着を図るようにする。 ･朝の学習，家庭学習を通して，文の構成の学習を継続していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，県や市の平均より高い。 ○慣用句の問題では，正答率が県や市の平均よりやや上回っている。慣用句の意味を理解し，正しく使えているといえる。	･朝の学習，家庭学習などを通して，ことわざ，慣用句の学習を継続していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，県や市の平均とほぼ同じ。 ○司会者の立場になって，適切な発言内容を考えることが県や市の平均を大幅に上回っている。 ●話し手の工夫や話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では，県や市の平均をやや下回っている。	･対話的な活動を授業の中で積極的に取り入れる。 ･国語の時間を中心に，各教科の学習や様々な活動の中で，効果的な質問の仕方や的確に意図を伝える話し方について確認しながら経験を積んでいけるようにする。
書くこと	平均正答率は，県や市の平均よりかなり高い。 ○資料を適切に読み取り，指定された長さで文章を書くことはできた。	･作文や感想文，学習の振り返りを書く活動など，自分の考えを文章化する機会を多く取り入れる。 ･読書や，分からない言葉を進んで調べることを通して，語彙力を高める。
読むこと	平均正答率は，県や市の平均とほぼ同じ。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有する問題は県や市の平均より大幅に上回っている。 ●登場人物の気持ちの変化について具体的に想像することが難しかった。	･説明文では，段落の要点をまとめたり，段落相互の関係を的確に捉えたりできるように読み取りを進める。 ･物語文において登場人物の気持ちの変化を教材文の叙述をもとに考えていけるようにしていく。

宇都宮市立宮の原小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.7	54.9	53.7
	図形	57.6	56.6	56.1
	変化と関係	52.8	55.1	55.2
	データの活用	44.6	45.5	44.8
観点	知識・技能	56.8	57.8	57.2
	思考・判断・表現	40.3	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

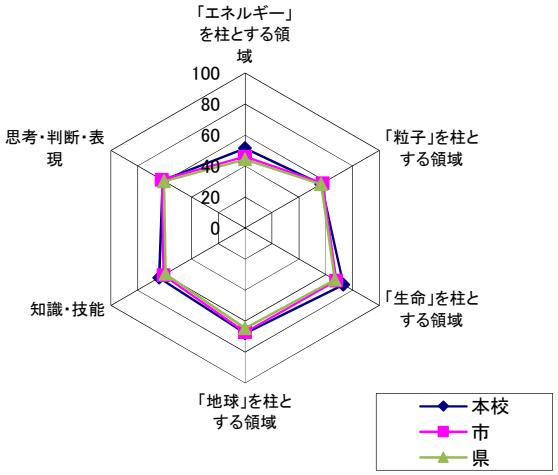
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	校内平均正答率は，市の平均よりやや低い。 ○大きな数の表し方や小数のしくみについての問題では，全体的な正答率が高い。コース別学習や少人数指導を充実させた成果だと思われる。 ●桁が増えた際の計算問題について，計算の手順が複雑になると，正確さに欠けるところが見られる。	・朝のステップアップやコース別学習で，個別の支援を継続的に行い，基礎的な計算力の向上を図る。 ・デジタルドリルを繰り返し活用し，自主的に課題に取り組む姿勢を身に付ける。
図形	校内平均正答率は，県や市の平均より高い。 ○立方体や直方体の性質については，概ね理解している。立体の具体物を提示したり，その展開図を作製したりするような活動を，学習に取り入れた成果だと思われる。 ●複合図形の面積を求める問題に課題が見られる。	・説明において，説明し合う学習を積極的に取り入れ，考察したことを表現する機会を増やし，理解が深まるようにする。
変化と関係	校内平均正答率は，市の平均より低い。 ○割合のしくみについては，概ね理解できている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことに，課題が見られる。	・数量の関係を捉え，正しくテープ図や数直線などの図に表す活動を繰り返し行う。 ・数量の関係について読み取り，考察したことを表現する活動を積極的に取り入れる。
データの活用	校内平均正答率は，市の平均よりやや低い。 ○複合グラフの読み取りについて，県や市の正答率より高いが，全体の理解は十分であるとはいえない。 ●グラフの読み取りについての力が不十分である。また，比べて関連付けて考えたり，読み取ったことを正しく表現したりすることに課題が見られる。	・算数の授業だけでなく，他教科とも関連させて二次元表や折れ線グラフ・棒グラフなどを読み取り，考察したことを表現する活動を積極的に取り入れる。 ・発展的な問題にも取り組ませ，対話的な学習を意識して理解が深まるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	51.5	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	56.6	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	73.2	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	67.9	67.2	64.6
観点	知識・技能	64.1	60.8	59.2
	思考・判断・表現	61.5	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	校内の平均正答率は，県や市の平均正答率よりも高い。 ○乾電池のつなぎ方とその名称についてはよく理解している。 ●電流の向きや大きさについての問題では，簡易検流計の読み方が十分に理解できていない。	・今後も理科的用語をおさえながら学習を進めていく。 ・電気の働きについて学習する際は，個々が実験に取り組めるように器具を揃えたり，活動の時間を確保したり，実験計画を工夫する。電流の流れる向きと，針が振れる向きの関係性が理解できるように指導する。
「粒子」を柱とする領域	校内の平均正答率は，県と同じく，市の平均正答率よりもやや低い。 ○とじこめた空気や水の性質についての理解ができている。 ●水や空気の温まり方について，目に見えない事物の現象についての理解が低い。	・楽しみながら学ぶ活動を多く取り入れ，体験的な学習を継続する。 ・実験に対する予想・仮説を立てる活動を大切にし，視覚的に捉えられるような実験計画を立て，得られた結果の根拠と関連付けて考えさせるようにする。
「生命」を柱とする領域	校内の平均正答率は，県や市の平均正答率よりも高い。 ○夏の植物の成長についてよく理解している。 ●骨・関節の名称についての理解ができていない。	・今後も植物を育て，継続して観察する学習に力を入れていく。 ・学習のまとめでは，理科的用語を使って児童が言葉でまとめる活動を取り入れる。
「地球」を柱とする領域	校内の平均正答率は，県や市の平均正答率よりもやや高い。 ○星の色と動き，星座の並び方について理解できている。 ●地面を流れる水の流れと，ビー玉の動きを関係づけて考えることができていない。	・家庭の協力を得ながら，季節ごとの星の観察を継続指導していく。 ・地面の傾きとビー玉が高い所から低い所へ転がることの関係性を抑えてから，実験に臨むようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第５学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「勉強していて，おもしろい，楽しいと思うことがある。」と肯定的に回答した児童の割合は89.1%で約9割となっており，市の平均と比べて約6ポイント高い。児童の興味・関心を高められるような導入の工夫や，生活に結び付けた授業展開をしてきた成果が表れれていると考えられる。
　今後も，楽しく分かりやすい授業の充実に努めていく。

○「毎日の生活が充実していると感じている。」と肯定的に回答した児童の割合は93.5%で，市の平均と比べて約2ポイント高い。教育相談やQ－Uなどから児童一人一人の悩みを把握し，適切に支援してきた成果が表れていると考えられる。
　今後も，一人一人を大切にし，学校生活がより充実したものになるように支援していきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで取り組んでいる。」と肯定的に回答した児童の割合は80.5%で，市の平均と比べて約3ポイント高く，「クラスは発言しやすい雰囲気である。」と肯定的に回答した児童の割合は73.9%で，市の平均と比べて約8ポイント高い。自分の考えを説明したり，グループで話し合ったりする活動を積極的に授業に取り入れてきた成果が表れていると考えられる。
　今後とも，目的に合わせた話し合い活動を行い，主体的で対話的な学びの充実を図っていきたい。

●「学校のきまりを守っている。」と肯定的に回答した児童の割合は91.3%で，市の平均と比べて3ポイント低く，十分とはいえない状況である。
　各クラスで学校のきまりやルールを再確認するとともに，児童がしっかりときまりを意識し守っていけるように継続して指導していき，きまりの大切さやきまりを守る意義についての理解を高めていきたい。

●「学校の授業以外に、ふだん（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間、読書しますか（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）。」の質問に対して，「全くしない」と回答した児童の割合が41.3%で，市の平均と比べて20ポイント高い。
　引き続き，図書館司書とも連携して本の活用の推進を図ったり，委員会とも連携しながら読書の楽しさや大切さを伝えたりし，児童が進んで本を読む機会を増やしていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
楽しい授業・分かる授業の推進	課題提示，教材，板書，授業の展開を工夫したり，一人一人のよさを伸ばす言葉かけや支援を行ったりして，楽しく分かる授業の展開に努めている。	「次の授業の内容はよく分かりますか（国語・算数・理科・社会）」の質問に肯定的に回答した児童の割合が，４年生は国語・社会・算数・理科において、５年生は，社会・理科において市・県の平均より高くなった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」や「家庭学習カレンダー＆振り返りカード」を活用したり，年間3回「家庭学習強化週間」を実施したりし，家庭と連携して目標時間や内容を意識した家庭学習の習慣化を図っている。	「家で，自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が，4年生・5年生ともに県の平均を上回った。とくに4年生は18.9ポイント高かった。また，「家で，学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合が，4年生・5年生ともに県の平均を上回り，とくに4年生が県の平均回答率より13.3ポイント高かった。
対話的な活動から学びを実感できる学習活動の工夫	互いに認め高め合い，進んで学ぶ児童の育成を目指し，対話的な活動を積極的に授業に取り入れ，主体的に学び合おうとする授業を目指している。	「授業では，クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「グループなどの話合いに自分から進んで参加している」の質問に肯定的に回答した児童の割合が，どちらの質問も4年生・5年生ともに県の平均より高くなった。